

いよいよ40周年記念公演ラスト。一月の前哨戦から始まり、二月の明治座が第一回。そして東京とにぎわい座において計15回。更に地方公演にも40周年の冠をつけ、トータルで36公演。見事完走と言いたところだったが、夏に脊柱管狭窄症で入院してしまったので「志らく珍品集その2」の一公演が出来なかった。それでも62歳、約2ヶ月間、座布団に座れず椅子に腰掛けの落語、退院後2ヶ月は釈台につかまりながらの落語と、我ながら満身創痍の中、ここまでよく漕ぎ着けたものだ。

1985年に談志の門を叩き、築地での修行を拒否し、2年半で二つ目昇進。そして二十代の半ば、深夜番組で談春兄と組んだ立川ボトイズが当たって落語界のアイドルとなり、落語の方はとにかく速い、ギャグたくさんさんのジェットコースター落語の異名で暴れまくり、95年に真打ち昇進。その頃から洋画を落語に作り変えるシネマ落語を発表し(70席)、弟子を沢山取るよ

になり、2017年には上半期ブレイクタレント1位に輝き、2018年にはM1審査員になり、2019年にはグッとラックのメインMCになり、2020年にはオリコン年間テレビ出演本数第3位(497本)になり、2024年「Eye Love You」で二階堂ふみさんの父親役で初の連ドラレギュラー、そして今年40周年を機に全身落語家宣言をして落語に全力投球するつもりが、政治関係での発言で保守層の星となり、調子に乗って失言をして、ネトウヨのレッテルを貼られ方々に迷惑をかけてしまいました。

まあ、他の落語家が見たことのない景色を沢山見てきた40年。その全てが本日の「芝浜」に集約するはずです。お楽しみに。

立川志らく

うになり、続いては映画界に進出して五本、駄作という作品を作り、それまでの名声を一気に失い、それでもめげずに今度は下町ダニーローズを旗揚げして演劇界に殴り込み。敬愛する向田邦子の「あ・うん」を手掛け談志と山田洋次監督に絶賛され、続いて愛する大林宣彦監督の「あした」を舞台化し、演劇に没頭。そのおかげで「タイガー&ドラゴン」からの落語ブームに乗り遅れ、恩師の高田文夫先生に叱られ、軸足を落語に戻すべく落語を一席演じてからその後日談を演劇で見せる「演劇らくご」を発表し、25周年の公演では談志から「俺のやりたいことはお前がだいたいやっているから安心だ」という言葉をもらい、2011年に師匠を見送り、その後テレビで売れていない私を悲しんでいた師匠の気持ちを知り、2015年にワタナベエンターテイメントに入ってテレビ界に進出。2016年にひるおび午前の部、月から金の帯のレギュラーに。更にバラエティにも出るよう

番組

「親子酒」立川志らく

「寝床」立川志らく

仲入り

「笠碁」立川志らく

「芝浜」立川志らく